

## 幼児教育学科生による公共図書館と連携した大型絵本劇制作

### ～発泡素材スタイロフォーム活用法の考察～

佐々木貴弘

筆者は、保育内容「表現」の指導の中で主に美術教育を担当しているが、総合演習の間では、造形領域のみならず、音楽、身体表現などの各科目領域で学んだ知識や技術を応用し総合表現活動と位置付け、「表現力豊かな保育者」を目指し演劇学習を行っている。本論は、担当する幼児教育学科生が、新設の公共図書館と連携し「図書館事業」の企画に取り組んだ実践研究である。その活動は、図画工作ゼミナールによって、「演習」「総合演習」の中で計画され、大学近郊の図書館にて、年一回行われる「図書館まつり」の中で実践される。学生は、その行事の中の幾つかの企画をチームで責任持って担当し、企画を練り上げ提案。自ら実践を行う。その中のメインプログラムとして、タイトルに記した「大型絵本劇」というスタイルの劇が位置付けられているのである。図書館まつりのテーマに沿って学生達が制作した、「大きな絵本の前で演じる劇」を、図書館で演じることで、日頃から本を好み図書館に集う子どもたちとの地域交流を試みた。

大型絵本劇とは、筆者が独自に教材研究し、約10年間、指導している演劇学習の中で用いている背景制作の表現手法である。演技者である学生は、大きな絵本式の背景画の前で物語の登場人物となり演じていく。この大型絵本劇を制作するにあたって、主材料として着眼したのは、副題にある発泡材「スタイロフォーム」である。本論では、このスタイロフォーム活用法や素材の有効性を提起し、この材料に到った経緯と、制作パターンの整理を行った。発泡素材が持つ独特の「軽さ」「加工しやすさ」「弾力性」「リサイクル性」など、事例を挙げながら提案していく。また、個々の学生側の制作実感、指導者側の指導実感も加え、活動の振り返りを行い「演劇学習の教育的意義と相乗効果」を考察した。当実践は、大学と町教育委員会、学生と図書館司書と連携して企画する「学社合同企画」として継続している。